

兵庫県環境審議会廃棄物部会 議事録

日 時 令和5年3月29日(水) 12:30~15:30

場 所 ラッセホール 5階 サンフラワー及びWEB

議 題 (1) 議題  
 ・兵庫県廃棄物処理計画の改定について  
 ・その他

|     |     |        |      |       |
|-----|-----|--------|------|-------|
| 出席者 | 部会長 | 盛岡 通   | 特別委員 | 中野 朋子 |
|     | 委員  | 木築 基弘  | 特別委員 | 新澤 秀則 |
|     | 委員  | 小林 悦夫  | 特別委員 | 花嶋 温子 |
|     | 委員  | 鈴木 榮一  | 特別委員 | 東浦 知哉 |
|     | 委員  | 西村 多嘉子 |      |       |
|     | 委員  | 藤田 正憲  |      |       |

|     |    |        |      |         |
|-----|----|--------|------|---------|
| 欠席者 | 委員 | 片山 喜久男 | 委員   | 北上 あきひと |
|     | 委員 | 幸田 徹   | 委員   | 中野 加都子  |
|     | 委員 | 政井 小夜子 | 特別委員 | 原 孝     |

|     |                 |        |
|-----|-----------------|--------|
| 事務局 | 環境部長            | 菅 範昭   |
|     | 環境部次長           | 上西 琴子  |
|     | 環境整備課長          | 高原 伸兒  |
|     | 環境整備課副課長兼資源循環班長 | 吉田 光方子 |
|     | 環境整備課廃棄物規制班長    | 松林 雅之  |
|     | 環境整備課資源循環班主査    | 大角 宗久  |
|     | 環境整備課資源循環班主査    | 隈部 康晴  |
|     | 環境整備課資源循環班職員    | 松林 将大  |

## 議題（１）兵庫県廃棄物処理計画の改定について

### ○ 事務局から資料１、資料２について説明

以下、委員からの主なご意見

#### （花嶋委員）

資料１はこれで完成版か。２ページ目に、日本は一人あたりの容器包装廃棄量が世界で二番目に多いと記載しており、環境省もこの図を使っているのでは仕方がないと思うが、このUNEPの出典では、EUは28カ国平均と書いている。

個別のデータをみると、日本よりも容器包装廃棄量が多い国はたくさんある。イギリスもフランスもドイツもイタリアも日本より多い。ただし、EU28カ国平均になると、日本より少ないだけである。自虐的な表現を記載しなくとも、例えば「日本は1人当たり30数キロ使い捨てのプラスチックを出している」くらいの方が現実に近いのではないか。

#### （盛岡部会長）

記載については、直した方がいいと思うところはあると思うが、検討会としてうまくまとめられているので、我々が計画に反映するときには、花嶋委員がおっしゃったことも含めて検討していければと思う。

#### （小林委員）

資料１について気になった点は、非常にオーソドックス的な計画となっているところである。プラスチックそのものについての議論があまりされてなく、一般廃棄物の処理と同じようなことがプラスチックという名前を用いて使われており、内容的にほとんど一緒である。プラスチックがなぜ他の廃棄物と違って問題であるのか、プラスチックごみはどのような特有な問題があってそれに対する特別な対策とは何なのかが少しでもわかるような書き方をして欲しかった。

２点目はプラスチックが問題になった原因は、海洋プラスチック問題や、マイクロプラスチック問題であると思うが、計画はそれについて全く触れていない。また、資源循環という話であるにもかかわらず不法投棄に関して全く触れていない。計画を作る段階では、その辺は整理すべきである。

３点目は７ページのところに一般廃棄物の処理フローを書いているが、その中のプラスチック排出量は市町が回収した量が書いてある。しかし、コープなどは店頭回収を行っており、店頭回収量も加えるべきではないか。産業廃棄物についても同様で、９ページで大企業の箇所は排出量となっているが、中小企業では発生量となっている。発生量は事業所の中で直接再生利用されたものも全部カウントされている。排出量はそれがカウントされていないのではないか。企業努力が無視されているのではないかというのが気になった。

４点目は資料２について、検討会とは委員の先生方が意見交換し議論するのが検討会だと思う。ここの検討会で出た意見に対して、検討会の中でどういう議論がなされたかをここに書かれないといけない。検討内容として何があったかという書き方をさせていただく必要がある。

５点目について、白色トレイは何を指すか。透明容器も含むのか。

### (事務局)

海洋プラスチック問題及び不法投棄に触れてないというご指摘について、今年度の報告書では中長期的な対応というところで、あくまで陸上でのプラスチックをどういうふうに減らしていくか、或いは循環していくかという点を重きに置いたので、海洋プラスチック問題や不法投棄で課題があるという点につきましては昨年度の検討会で問題点として取りまとめており、今年度は上流側の資源循環を考えていくこととなった。報告書に触れられてないというように見えてしまうかもしれないがそういう状況である。

フロー図については市町が受け取ったもの或いは産業廃棄物で県に報告されたものの数字しかないが、当然上流側までさかのぼって見なければならず、エッセンスとして取り入れなければならないと考えている。ただ、フローとして数字が出せるかは分からない。

白色トレイとは発泡スチロールのトレイということであり、透明パックは容器包装プラスチックに該当する。

### (小林委員)

実はコープは、透明プラスチックは回収されているが、色つきのものについては回収されていない。色つきのプラスチックを使うのをやめてはいかがかと提案をした。

### (盛岡部会長)

どういう品目やどういう様態のものを回収するか、広報とそれから市民の理解というのをどう進めていくかを課題とし、計画ではとらえていただきたい。

### (藤田委員)

2 ページに記載しているマイルストーンの中のバイオマスプラスチックを約 200 万トン導入について、バイオマスプラスチックの言葉の使い方が曖昧ではないか。CO<sub>2</sub>削減の面からバイオマスを導入するのか。或いはバイオマスプラスチックを導入することで、小林委員が言ったような海洋プラスチック問題に対応できるという意味で生分解性という言葉を使用しているのか。バイオマスプラスチックでリサイクルするとあるが、県としてはそこまで科学的或いは技術的なところをフォローしてるのか。

### (事務局)

バイオマスプラスチックについては環境省でもバイオプラスチックロードマップを掲げており、そこで 200 万トンを導入していくと記載がある。バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックは役割分担が考えられており、生分解性プラスチックは、農業用の堆肥化用生ごみの収集袋とかマルチフィルム、漁具などの海に流れてもいいものについては生分解性プラスチックが役割を担い、バイオマスプラスチックは一般プラスチックの代替みたいな役割を担う。これらを合わせて大体 200 万トンの導入を目指していこうというようなストーリーになっている。

国も生分解性プラスチック、バイオマスプラスチックを使い分けて、あわせて 200 万

トンの導入という形で進めていくと書いている。

**(盛岡部会長)**

県の計画の中でバイオマスプラスチックに関する論点整理をするとき、事務局が説明した用途、特性に合わせて、バイオマスプラスチックと表現せずに捉えていくという姿勢は担保されるか。

**(事務局)**

そのように考えている。

**(盛岡部会長)**

それであれば、計画に入れ込んでも問題ない。

**(小林委員)**

3 ページに国の資源循環戦略が書いてある。ここには海洋プラスチック問題とか国際展開とか、いろいろ取り扱うという意味で書いているが、県のものにはない。報告書に書けないのであれば、パブリックコメントを出すときに、抜けがあるという意見が出てくる可能性がある。整理しないといけないのではないか。

**(事務局)**

資料 1 はあくまでプラスチックに特化し、限定した上で議論していただいたというところであり、廃棄物処理計画なりそれを発展した資源循環推進計画の中の一部に入っていくということである。

**(小林委員)**

私が申し上げてるのは、国のプラスチック資源循環戦略に書いてある項目と、今回の検討会の報告書に書いてある項目の間に抜けがある。その抜けがどうなのかという話であって廃棄物全体の話をしているのではない。

**(盛岡部会長)**

令和 4 年度の報告はいわゆる陸上でのプラスチックの生産流通という部分について、消費者が関与する、リサイクル等についてのところに重点を置いて書くということだったそうである。公表する場合はそこを明確に記載し、国のプラスチック戦略と重なっていない部分があること読み手に理解してもらったらいと考えるがどうか。

**(事務局)**

そのとおり検討させていただく。

### (新澤特別委員)

肝心なところは第4章の中長期的方向性で、いろいろ指標を設定し、数値も目標として出し、その算定方法も直接的には測定が無理なので、間接的に計算するというのを提案している。18、19ページでは県民の協力としてどういったものがあるか、取組自体の指標も必要だという意見が検討会であったので、その指標についても記載がある。この内容は資源循環推進計画に入っていくと思う。

### (盛岡部会長)

環境省が計画を立てるときも委員の間では関連する資料等の中に、幅のある推定をされて、その推定の厳しめの予測した場合と、中庸な場合と低位の場合について、その効果、それからいわゆる社会的コスト、困難さも検討され、目標値をマイルストーンとして示すアプローチをとっている。プラスチックの排出量8%削減とか産廃の場合には3割とか数字が出ているが、プラスチック資源循環検討会で幅のある議論を十分に検討された上でレポートを出していただいていると理解している。

### (西村委員)

希望としての意見ではあるが、利便性の高い重宝していたプラスチックの何が問題なのかということ最低の基盤に置かないと、兵庫県を対象とする検討会にせよ審議会へ進むにしても、パブリックコメントの中で、県民理解がどこまで得られるのかが重要。県民といっても事業者も入ってくるわけだが、とりわけ生活をしている多くの人たちが理解できるような理論展開を進めて欲しいと希望する。検討会でおそらく意見を出し切られたと思うが、次の我々が今開いている審議会につなげていける、そういうことを意識していただきたいというのを委員の先生方にも、ぜひお願いしたい。

### (盛岡部会長)

例えば、「混入産廃の半数を、排除した効果も加算」と書いてあるが、混入産廃という言葉は、専門家でないとうからない。パブリックコメントの際は市民感覚的に分かるところまで情報提供しなければならないと思う。人口減はどれぐらいの効果があって、混入産廃の半分を排除するという効果はこれだけあるということ、積み上げてやっていることがわかるような何かがあってもよい。一般市民からするとそういうことはものすごく関係あるし、もっといえば容器包装プラスチックの過程で10%削減することが、一般市民がモデル生活をイメージしてどんなものを削減したらいいのか、市民感覚的に分かるようなところまで情報提供しなければならないと思う。

その数字を出すことは大変だと思うが、将来そういうことも出すというイメージがある方が、西村委員の意見に沿っていると思うし、県民にとっては理解が進む。データはあるとのことなので、報告書の中に事細かく書くのは大変であるから、協議会、コンソーシアム、市町、法人等と協力しながら、適切な情報提供等を行っていく旨を計画に記載すべきであると思う。

## ○ 事務局から資料3～資料4のとおり説明

以下、委員からの主なご意見

### (新澤特別委員)

3点ほど伺いたい。1点目に1ページの右下に、インセンティブが働く経済的手法等の動向注視ということが書いてあるが、県下で注目すべき動向があるのかどうかということ伺いたい。これは取組みやすさの向上への工夫という表現よりもむしろ(2)に入れたほうがいいのではないか。

2点目に2ページの食品ロスについて、フードドライブを実施するスーパー等がある市町の拡大ということだが、これはスーパーが事業者として立地を決めるわけで、それをどうコントロールするのかということが見えない。市町がスーパーに関してインセンティブを与えるのかどうか、誰に対して働きかけるのか、市町が頑張ることができるものではないと思うがいかがか。

3点目にサステナブルファッションについて、県として、具体的にどういうふうに関わりかけるのか。その時期について伺いたい。

### (事務局)

まず1ページ目のインセンティブについて、県下での注目すべき動向としては先ほど資料1でも説明させていただいたループという取組である。イオンの店舗でガムや洗剤などの商品を買って使い終わったら容器を店舗に戻すいわゆる昔で言うデポジットシステムである。県内でも取組が展開されている。また、検討会の中でも意見があったが、惣菜の入れ物を自分で持ち込み買い物をすれば2円安くなるなどの取組ができればということ想定し、このような書きぶりとなっている。(2)の方に入れるということでご意見いただいておりますのでその方向で検討させていただく。

フードドライブの部分について、環境政策課の方で取り組んでいるところではあるが、こちらの方については市町への拡大ということで県だけでできる部分でございますので、やはり市町に広報等もお願いする部分がある。新澤委員がおっしゃるように市町が頑張ればスーパーが動くということもないと思っている。そういう意味ではスーパー等のドライビングフォースが効いてくる部分であると思っており、県の目標としましては33市町から40市町を目指していくという目標があるので、今回ここに落としこむイメージである。

3点目のサステナブルファッションについて、利便性・快適性・ファッション性というところで非常に難しいと我々も感じている

先日から、コンソーシアムの中での公民連携ということで、アシックスのスポーツイベントでスポーツウェアの回収をし、各種リサイクル素材として、まずはグリーンバッグのようなエコバッグに変えるという展開を進めている。今後はスポーツウェアをスポーツウェアに戻す取組を検討するなど、民間企業とも一緒になりながらリサイクルだけではなく、使用削減に取り組んでいく。

### (小林委員)

資料の 2 ページに、資源循環の個別施策と書いてあるが、書いてある内容が個別施策ではない。何か違う良い言葉を使ったほうがよい。

### (盛岡部会長)

重点だと私は思う。個別施策の 3 点について、なぜこの 3 点を考えるかを書いて欲しい。3 点以外でも長期的なビジョンの部分もあるので、記載する姿勢を示してほしい。

例えば、太陽光発電は、20 年ぐらいしかパネルが持たない。大量にパネルの廃棄物が発生した時、国の責任だけというわけにはいかない。地方自治体が何かやらなければならない、そのための調査なりフレームワークなり情報収集なりは今からやっていく必要があり、次から次へターゲットというものが出てくると思う。そこに対することも我々の計画ではきちんと見れている事が分かるというような計画にしてほしい。

### (小林委員)

3 ページで、重点目標と目標を分けてあるがこれはどういう区別があるのか。

例えば、重点目標は絶対守るが、目標はある程度でいいよという意味なのか。区別がよく分からないという気がしており、今後の計画でトーンダウンしてしまっている。

また、セメントリサイクルの推進というのは、一般の方が読んで、これは一体何なのかという話になると思う。もう少しきちっと書かないといけない気がする、ここに書く必要があるのかとも思うので、ご検討いただきたい。

もう一点、これは全体的な話であるが、例えばフードドライブの話が出てくるが、コープもやっている。私も気になって見ているがほとんど回収されていない。見ている限り 1 日に 1、2 個しか入ってない。私は賞味期限が近づいてきたら、それに対して値引き工作をしたほうが遙かにフードロスに繋がると思う。つまりは「てまえどり」というものである。例えば、値引きをかけていくなど、それを誘導する施策がいる。私が業者の方と話したら、よく分からないと言われることがある。実際にどういうことを業者として、店としてやったらいいのかという指導体制が必要だと思う。例えばひょうご環境創造協会の中にそういうことをアドバイスするような、組織を作るなど必要ではないか。

例えば、スイスでは包装容器の回収の窓口があり、回収した容器包装に見合うチケット渡している。スウェーデンでは、容器のデポジット製リサイクルを行っている。ブラジルでは子供が学校帰りに道のごみを拾って拠点に持っていくとそこでお菓子に代えてもらう運動を行っている。それによってごみを集めるだけではなく、子供に不法投棄をしてはいけないという教育をしている。こういう活動を日本もしなければならぬと思っている。そういうことに力を入れてやっていただくような、指導センターというか、拠点みたいなものが欲しいと感じた。計画に盛り込めたらなと思っている。

### (藤田委員)

容器包装リサイクル法のプラスチックの回収が非常に少ない。これを上げる方法は、スーパー等に協力を仰ぐことがよいのか、市町村に働きかける方がよいのか。どちらも記載されている。私が思うに、自治体が主体としてやっていかないといけないと思う。

関東の自治体の方が、県より回収量が多いのであれば、なぜ県は同じようにやれないのか。他府県を参考に、取組方法を計画の中に記載してほしい。

### (盛岡部会長)

一般廃棄物に関しては市町村の役割が非常に大きいところがあり、県としては苦労されていると思うが、プラスチックの関連も含め、市町との連携を図る舞台をいくつか作って展開していこうという方向性はとっていたが、ただ単年度ごとに何が課題で次はどういうことに取り組んでいくという、レポーティングができてないところがある。それをしっかりやっていただきたいのと、兵庫県はひょうご環境創造協会という組織があるので、うまく活用していただくことが大事だと私は思う。それを市町村の連携の素材としてお使いいただくことが大変重要ではないかなと私は思う。

### (花嶋委員)

個別施策とそのあとの繋がりがよくわからない。個別施策がなぜ出てきたかよく分からない。個別施策で出てきたのであればそれをどうするのかという指標もない。ファッションの話題は出てきたけど、どうするかがない。重点取組でもない。取組と指標が繋がっていないとおかしいのではないか。何でそれを取り上げたのかも今ひとつ読めない。兵庫県は今こういう状況だからこういうことを取り上げて、そのためにここを目指すような、兵庫県の計画はこういう計画だと伝えられるようなストーリーがないと県民へ伝わらないのではないか。

### (盛岡部会長)

兵庫県の計画は、一般廃棄物や産業廃棄物のある種の計画だけではなくて、県民、事業者の日常的なアクティビティに関連づけて、資源循環を県の単位で形成していくということに関して、改めて取り組んでいる。なぜ改めて取り組んでいるかということ、資源循環ビジョンを約 20 年前に先進的に作った。しかし、改定をしてないと、時代背景的に様々な課題が浮き彫りにされてきた。その浮き彫りにされてきたものを、総じて見ると、県民のライフスタイル、暮らし方に根差して再構築していこうという宣言である。その時に着目できるのが、ここで言う衣類も含めた衣食住買い物あたりをもう一度、資源循環から何ができるかっていうことを見たというストーリー立てが欲しい。それがあれば、市民がその買い物なり、様々に利用する材の供給で繋がっている事業者、またその素材を作る事業者、またそれを廃棄したときに、それを回収する廃棄物の関連の方々が連携してそれらに取り組んでいく。何よりも県民主体で取り組んでいくのだということを変更して描こうとしている。描き方がまだ十分でなくとも、県民と一緒にやって進めていくことが書いてあれば私は良いと思うがいかがか。

### (花嶋委員)

ありがとうございます。ただ、食品ロスやファッションの話は、今、日本全国で話題になっており、かつ、環境省が旗を振っている話題であるので、どこの循環の計画にも出てくる。何で兵庫県はそうするのかということについて、もう少し背景が欲しい。先



ほどフードドライブのところは何も入ってないと話があったが、フードドライブが本当に必要なのか、フードドライブは全国的にフードドライブをやりますとか、ファッションも衣服がたくさん捨てられ困りますというような同じ論調であるので、兵庫県は何をやるのだという特色を出したほうがいいのではないかなと思う。

### (木築委員)

1点目は構成について、一番気になったのは今花嶋委員がおっしゃったことで、キーワードはすべてちりばめられており、関係者とか当事者に見せる資料としては行き届いていると思うが、経営やっている立場からいくと、What と How はたくさん書いているが Why が書かれていない。先ほど部会長もおっしゃっていたが、なぜ取り組んでいるのか、何のためにやっているのか、言い方を変えれば、企業であれば、趣旨や思い、背景、ビジョンを丁寧に書いているが、そういうところがないのが残念であった。

もう1点は細かいところになるかもしれないが、大事なキーワードがサステナブルファッションの部分だけになっている。大量発注・大量生産・大量消費・大量廃棄について、例えば大量発注にしてもコンビニが食品ロスにも関わっているし、この項目はファッションだけのことではないと思う。もう一つ言うと、その循環利用という表現があるが、例えばシェア購入などアプリを使って共同購入するというものもあり、どんどん産業が進んで時代が進化してきている。ファッションだけじゃなく、シェアと長期使用という言葉がこの図の中に小さく入っているだけなので、このシェアとか長期使用などをフォーカスしてあげて欲しいと思う。

### (鈴木委員)

プラスチックの取り組みのわかりやすい指標として、例えば行動変容とか、環境学習的なものに対する指標として、そういうイベントに多数参加した参加者とか、それから取り組みをしている団体数とか、そういう数を上げているが、4 ページのところにも各種主体の連携、行動変容、人材育成等の推進という項目で書かれているが、その評価は、各個人の啓発、行動変容ということなので、イベントとかそういうことによって、各個人がどう変わっていくか、そのような結びつきを何らかの形で行動変容の変化を測定する方がいいのではという気がした。

4 ページの主体について、この目標達成に向けた施策の体系のところの主体が、私にはよくわかりにくい。各主体の連携、行動変容、人材育成の推進の項目での、県民や地域団体というところを主語にするのか、或いは相手にするのかしたいのか。ご説明いただきたい。

### (事務局)

個人の行動変容の評価というと非常に難しいと思っている。どういうことで数字を、或いは変化を見ればよいのかということでは難しいと思っている。先日話題に出たのがレジ袋の削減ということで、消費者行動のアンケートの中で評価されている部分があったので、そういうところで把握できるかなと思っている。環境だけで行動変容をとらえていくかを考えていかなければならないと思っている。

4 ページの最後のところのご指摘について。丸が入っているところは関係する方というイメージで書いている。丸の位置がまだ不適切な部分があるかもしれないが、基本的にはこの丸が入っている方に関係していただき、一緒になって取り組んでいくというようなイメージで考えている。

**(鈴木委員)**

そうすると、全部丸がつくのではと感じる。例えば最後の 3-5 の環境学習・教育の展開、人材育成の推進について、県民・地域団体・事業者・処理業者含めて全部に関係しそうな気がする。もう少しわかりやすい丸のつけ方があればいいかのではと思う。

**(事務局)**

最後の 3-5 の環境学習教育の展開人材育成の推進について丸が抜けていたので修正する。

**(藤田委員)**

総合計画としての資源循環の方向性（資源循環ビジョン）で目指す社会が四つ書いている。循環経済、カーボンニュートラル、自然との共生、あらゆる主体の参画と協同。自然との共生が浮いているような感じがするが、どうしても入れないといけないのか。

**(事務局)**

自然に負荷をかけすぎるとか天然資源の投入も問題だと考えている。自然の樹木を活用して、それを有効に活用することによって逆にそういう石油化学とか化石燃料とかを使わなくて済むのではないかと、資源循環に自然との共生というのは非常に重要であると思っている。バイオプラスチックを作るとしても自然に影響を与えるようなバイオマス利用としても自然の影響がない範囲で使わないといけない。そういう意味で自然との共生っていうのは必要かなというふうに考えている。

**(藤田委員)**

分からないわけではないが、この文言だけ古い形の環境の概念ではないかという気がして、昔から自然共生という形でキーワードとしてきたので、2050年にまだこれかという気がしたというのが感想である。これと別の循環経済のところとかカーボンニュートラルとかを入れてもおかしくはないような気がする。どうしても入れるのであれば結構である。

**(事務局)**

海洋プラスチックごみが念頭にあったというところがあり、書きぶりは藤田委員のおっしゃるように、少し古い形に潜在しているのかなと思う。内容を吟味させていただきたい。

### (東浦委員)

「資源循環の個別施策」の中に、中期的な取り組みの目玉となることが述べられているということであり、これらについて、全県民レベルの運動とする上流へのシフトが意図されていると部会長が解説された。そうであれば、現在の社会にとって最も明瞭な主題であるカーボンニュートラルの達成ということを計画の正面に据えてはどうか。再生利用率や最終処分量も重要であるが、CO<sub>2</sub>削減に具体的な数値目標を設定することは検討できないか。計算や設定が難しいのかもしれないが、県民を巻き込む取り組みであれば、CO<sub>2</sub>発生量の削減がもっともわかりやすいKPIではないか。

### (事務局)

廃棄物処理計画については法定計画であり、減量化或いは適正処理に係る廃棄物処理の基本方針に基づくもの、或いはそれに準ずるものというふうに考えている。

法定計画でCO<sub>2</sub>の指標は入っていない。環境省でも現在、基本方針の見直しをしておりますが、新たに項目として入れるという動きが出ていない。

法定計画では入れにくいと考えているので、前段の2050年2030年の目指すところでしっかり書き込むということできたらと考えている。

### (小林委員)

まとめ的な言い方になって申し訳ないが、ストーリー性をもう一度整理し組み替えをしたらどうか。ストーリー性がないから公表したときに何がどう繋がっているのかという話になってしまう。もう一つ、廃棄物処理計画と法定計画が突然のこと真ん中に入り込んできている。できたら、資源循環計画として綺麗なストーリーを作った上で、法定計画として繋がってぶら下がっているというわかりやすいやり方にした方が良いのではないか。以前に県の環境管理計画作ったときに、事前に見せてもらったとき、組み直しをした方が綺麗になると言って、2回か3回議論して組み直しをやった。これについても組み直しをすれば、それなりに意味が出てくるなという感じがするが、一度トライしてみてはどうか。

### (盛岡部会長)

今のお答えも含めて、資料5の環境審議会廃棄物部会のスケジュールもご説明いただきたい

### (事務局)

本日第3回の目標骨子案ということで、資料5に書かせていただいている。令和5年5月にパブコメ案ということであるが、今多岐にわたるご意見をいただいているのでその整理等も含めて、どういう方向性でいくか考えてみたいと思っている。

それを踏まえて、事前に委員の皆様にご覧いただいて意見を求める形で進めるか検討させていただき、5月なり6月頭なりに開催させていただきたいと考えている。

### (盛岡部会長)

組み替えのような話については、場合によっては、事前にご発言された委員を含めて、進め方はこういうふうにしたいという内容の説明を先にしていただいたほうがいいのかと思う。従前と同じ枠組みでやりたいということであってもそれはもう仕方がないと思う。そのような議論をしながら案を作ったということは最終的にパブコメの段階でも説明した方がよい。

以上で審議は終了する。

以上